Rising of The Redmoon

▶サークⅡガイドブック◀

これがサークⅡの世界だ

じゃーん！　マイクロキャビンの期待の新作、『サークⅡ』の徹底付録の始まりなのだ。まずは、簡単にゲームのあらすじを説明しよう!!

主人公のラトクは、行方不明になった父の消息を求めて、妖精のピクシーと一緒にバヌワの港町へと向かった。だが、途中のボローズの森で道に迷い、森から出られなくなってしまったのだ。このボローズの森の中から、サークⅡの物語が始まるのである。

ここで、ちょっと上のイラストを見てほしい。中央に見える港町がバヌワの町だ。この付録は、そのバヌワの港町での登場人物を初め、アイテム、モンスター、マジックなどを、まるまる１冊にまとめたぞ。コレ１冊あれば、これからの冒険がかなりスムーズにいくんじゃないかな。十二分に活用しちゃってくださいね。

それではスペースもつきてまいりましたので、このへんでそろそろいってみましょー!!

⬆ボローズの森からゲームは始まる。この森には結界が張ってあり、出口が見つからないのだ。

⬅ここがバヌワの港町。どんな事件が待ち受けていることやら。

バヌワの港町

登場人物大図鑑

主人公のラトクやピクシーを含めて、バヌワの港町に登場する人物をドーンと紹介しちゃうぞ。

ラトク・カート

このゲームの主人公。3年前、全世界を闇に閉ざそうと企てたバドゥーという凶悪な魔物を倒す。その後、数々の冒険を重ね、その武勇伝は各地に広まっている。明朗快活で、誰からも好かれているのだ。

ピクシー

ラトクの旅のガイド。妖精界からサーク界に修行に来ている妖精族。前作『サーク』でウェービス王の命を受けてフェアレスを訪れ、ラトクと出会う。明かるくてカンがいいが、とてもヤキモチヤキ。

シャナ・タウトゥーク

ボローズの森の女狩人。ある日、ボローズの森で魔物に捕まってしまい、大木に縛られていたところを、たまたま通りかかったラトクに助けられる。負けず嫌いだが、実は寂しがり屋な女の子なのだ。

セスト・アリーナ

バヌワの町の町長。バヌワの町は、このセストの祖父が仲間と共に開いた町なのだ。町の人からの信頼が厚く、温厚な知性派であり争いを好まない。結晶の谷の採取物の商いをまとめる商人でもある。

バスパ・ドラムエ

気まぐれな性格をした医者。実はアルコール中毒。一見、ただの飲んだくれのように見えるが、医者としての腕は確かなようである。若いころは、王のもとで働いていたこともあるというが……。

ジーク・ボルドー

バヌワの町の陽気な武器屋。バスパの話だと彼は何かを知っているらしいが、昔の話はあまりしたがらない。かつて王に仕える剣士だったが、何かの理由で剣を捨て、鍛冶師の道を選んだという。

ケンツ・マスターク

教会の牧師さん。温厚な性格だけど意志は強く、いかにも牧師という感じの人。ボローズの森の魔物どもにはかなり頭を悩ましており、バヌワの町を訪れたラトクに魔物退治を依頼する。

エニグマ・ロスポロス

バヌワの町で魔法屋をやっている、アブナイ女主人。年齢不詳の三流魔法使いで、珍しいマジックアイテムには目がない。牧師のケンツとは意見が合わないという。ラトクのようなタイプが好みらしい!?

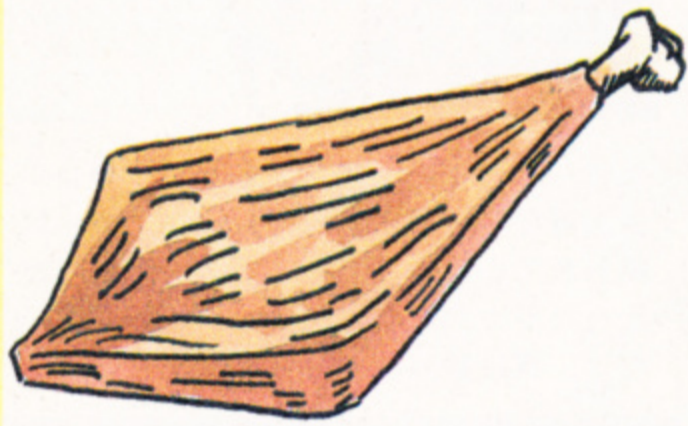
フリーシア・マハーク

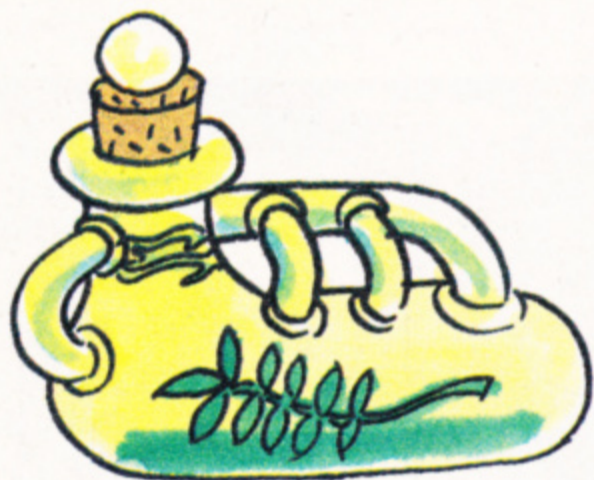
道具屋の娘。何か知ってるようなそぶりを見せるのだが、ラトクが突っ込むと話をムリヤリそらしてしまう。彼女の父は、最近魔物が多く出現するので、町を出ていこうとしているらしい。

アイテム大図鑑

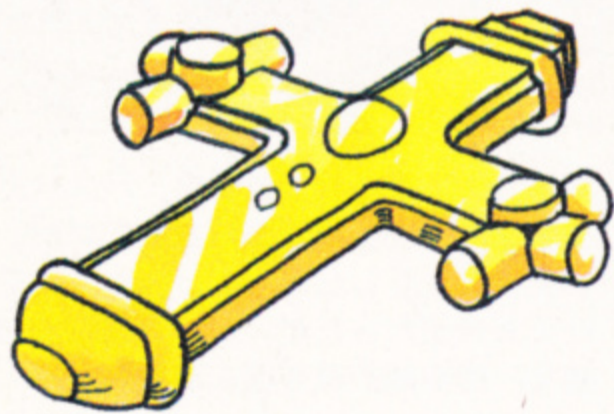
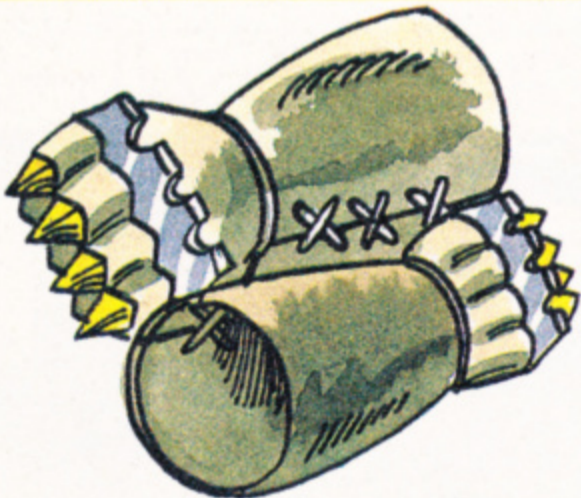
アイテム

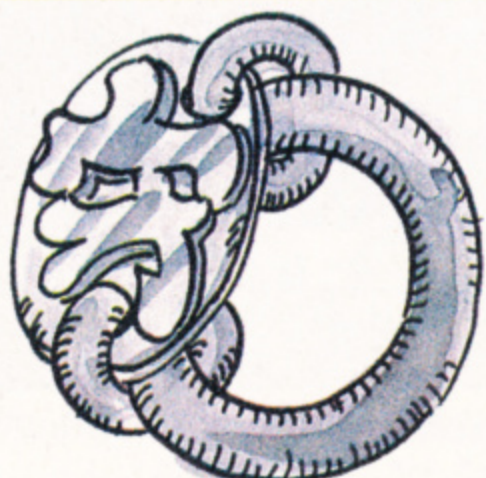
パン

食べるとライフを回復することができる。回復量はわずかなものだが、何といっても値段が安いのだ。

干し肉

パンと同じく、食べるとライフを回復できる。パンより値段が高い分、回復量も多いぞ。やっぱ肉だもんね。

ゲミルポーション

ゲミルという薬草から作られたポーションだ。これを飲むと、たちまちライフが全快するのだ。

クロス

十字架の形をした銀製のアミュレット。これにお祈りすると、カルマを取り除くことができる。アーメン。

ガントレット

まあ、いわゆる小手ってヤツだな。コイツを腕に装着すると、その者の攻撃力がアップするのだ。

プロテクション・リング

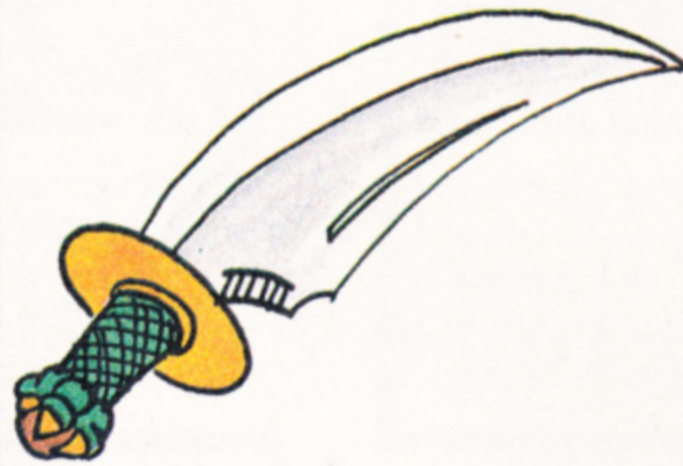
この指輪を身につけた者は、魔法の力で防御力を高めることができる。前作サークでもおなじみのアイテム。

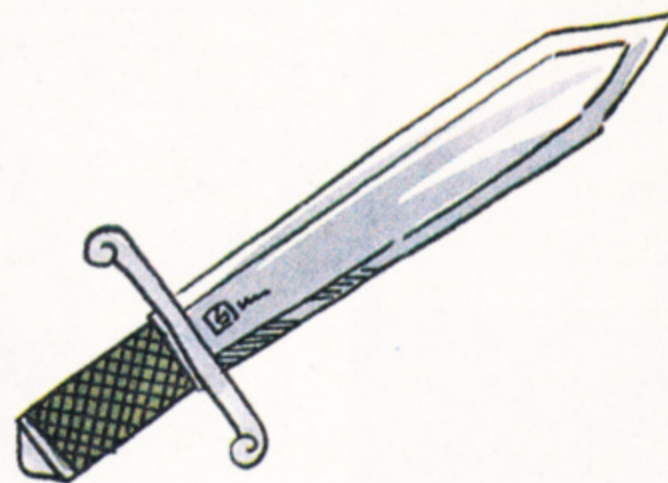
ライフ・マント

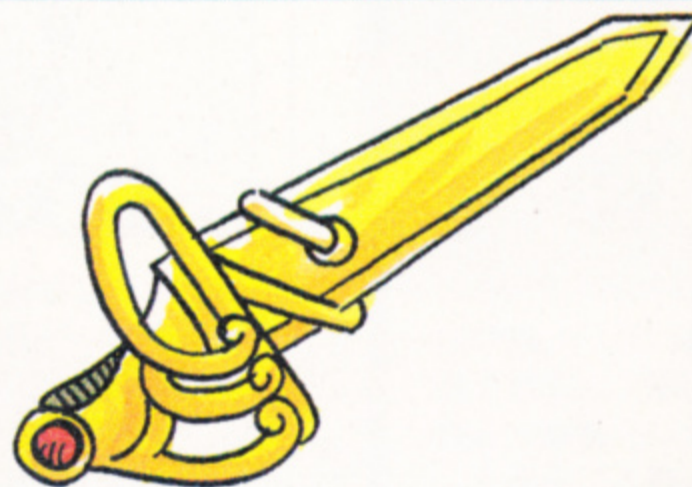
このマントを身にまとえば、地下でもライフが回復できちゃうのだが、少しずつしか回復しないので注意。

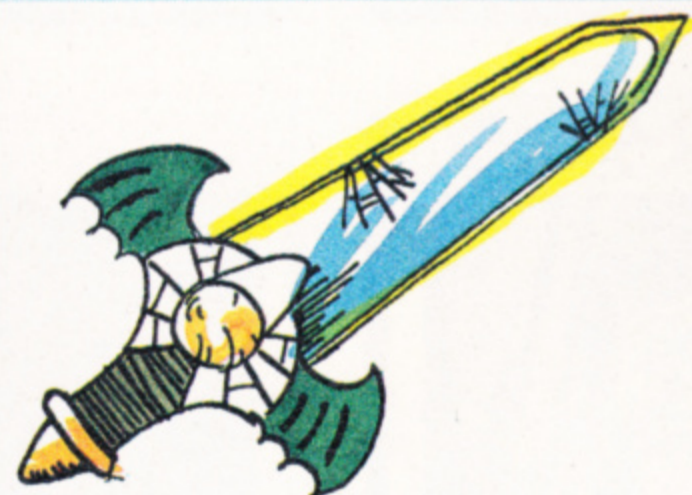
ソード

グラディウス

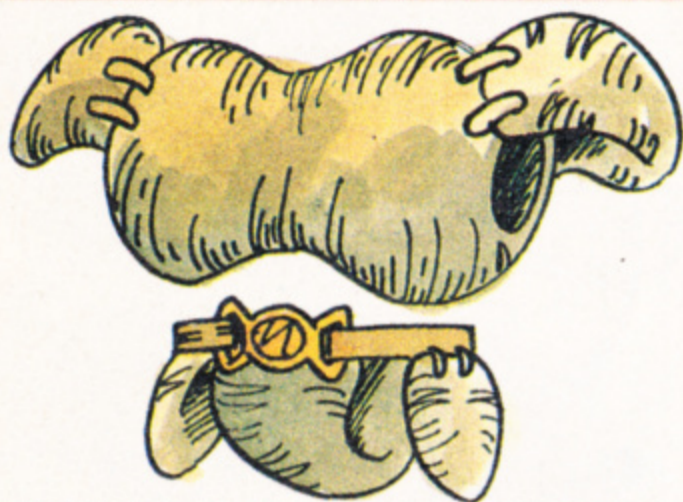
バヌワで売っている中では最も安く、軽くて扱いやすい剣である。もちろん威力は値段相応なんだけどね。

ファルシオン・ソード

幅の広い湾曲した剣で円月刀とも呼ばれている。グラディウスより重いが、慣れれば相当な威力を発揮する。

セーバー

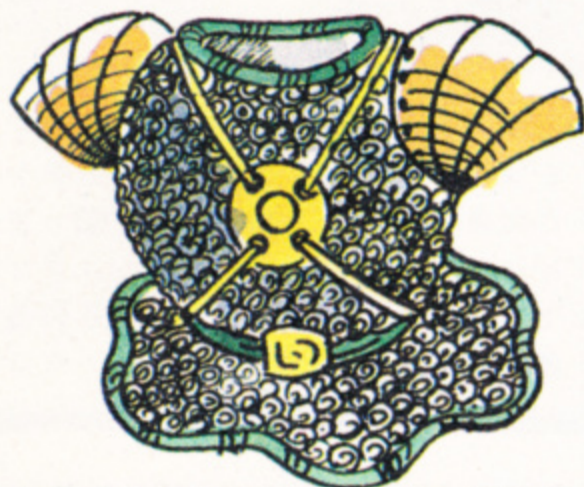
多くの戦士に愛用されている剣だが、バヌワの町で売っているのは、その中でも特に鋭い上物である。

ブロード・ソード

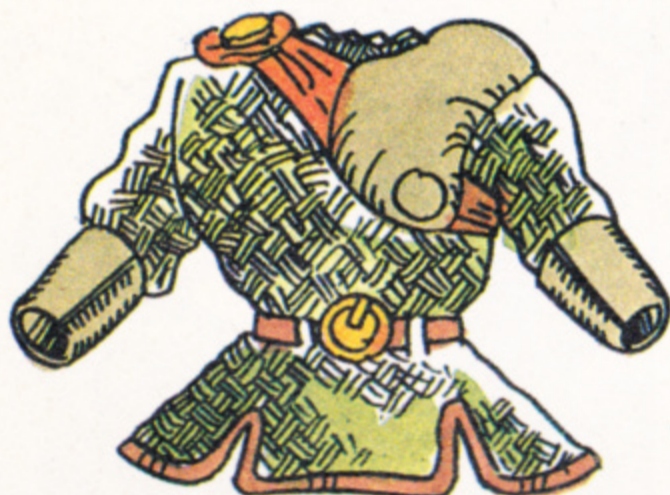
とてつもない破壊力を誇る剣である。その重さも並ではなく、かなりレベルの高い戦士でないと扱えない。

グレート・ソード

3年前バドゥーを倒したときに使った、サーク史上最強と言われる剣。3年の間酷使され、相当傷んでいる。

ここで紹介するものは、ほとんどがバヌワの町で買うことができる。よーく考えて買いましょー。

アーマー

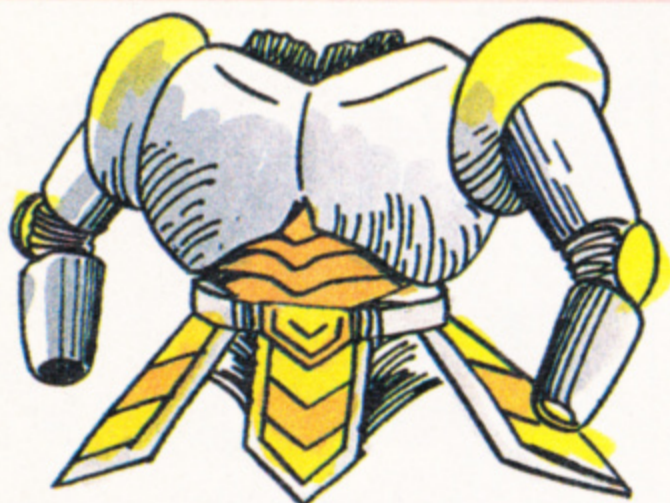
レザー・アーマー

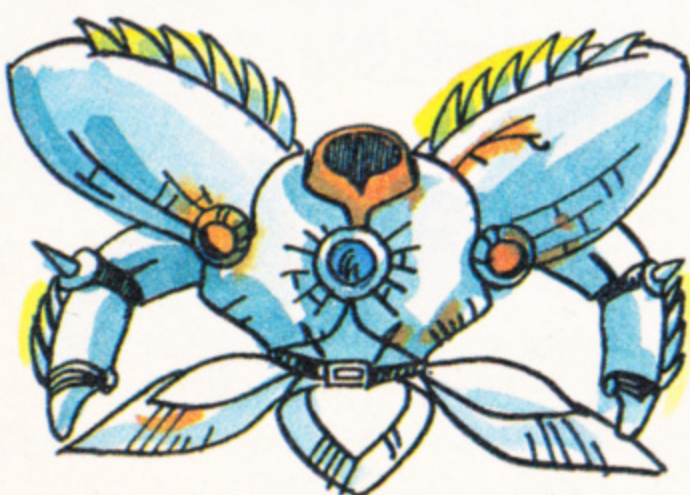
硬い革でできた鎧。防御力はそれほど高くないが、軽くて動きやすい。しかも、静かに移動できちゃうのだ。

リング・メイル

小さな金属のリングを細かくたくさんつなぎ合わせて作った鎧。金属製なので少し重いが、防御力は高い。

チェイン・メイル

細い金属の糸で編んだ鎧。少々重いが、バヌワの町で売っているものは特殊な編み方がしてあり動きやすい。

スケール・メイル

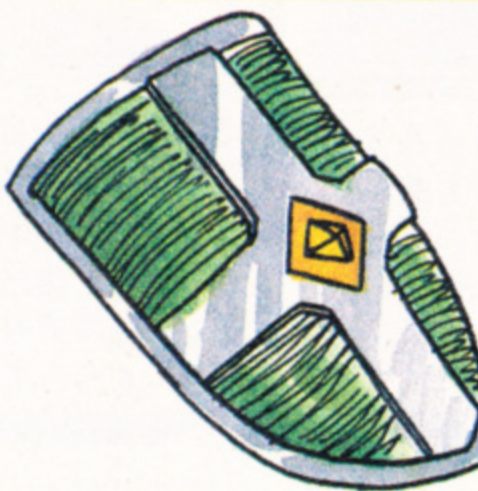
革の上に、小さな金属の板を無数に取り付けたものがこのスケール・メイルだ。防御力はかなり高いぞ。

ブリガンディー

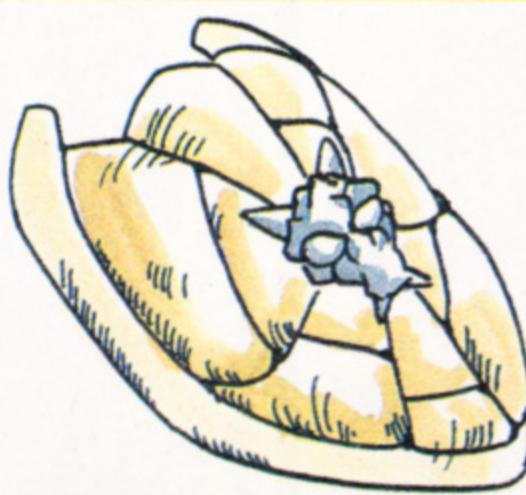
全身を覆うことができる、合金製の鎧だ。非常に重く動きにくいが、その分防御力は抜群なのだ。

プレート・メイル

サーク史上最強といわれる鎧。3年前にラトクが炎の砦にて入手した。3年の間にかなり傷を受けている。

シールド

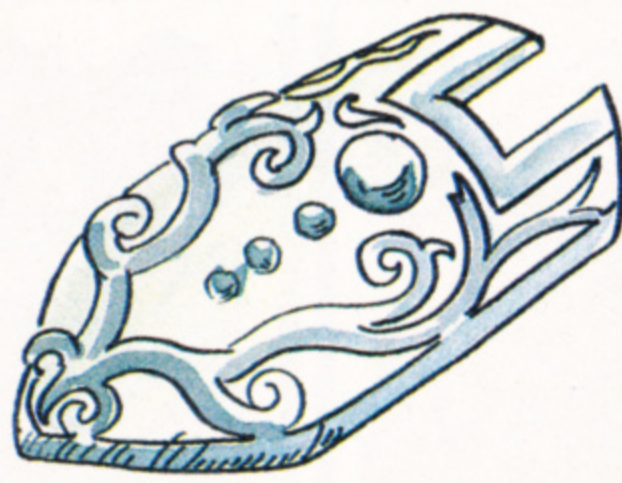
スモール・シールド

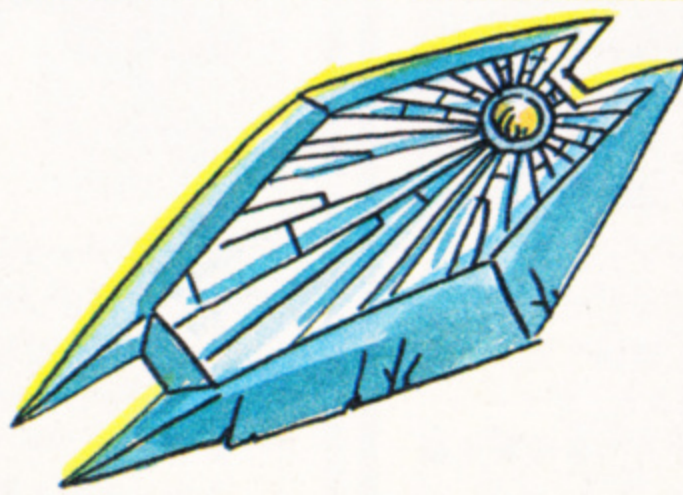
小型で比較的軽く、とても扱いやすい盾である。レザー・アーマーなどと同様、初心者向けだといえる。

ラウンド・シールド

スモール・シールドよりもひと回り大きく、がんじょうな盾。大きい分だけ、防御力も高くなっている。

ラージ・シールド

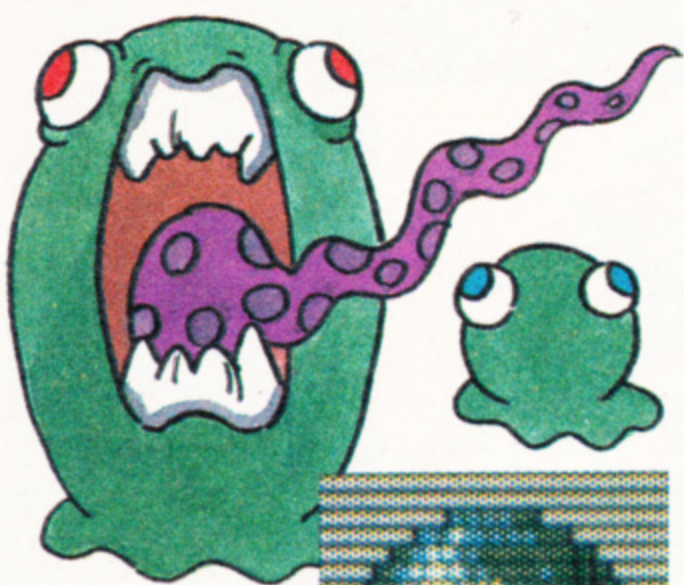
大きさは、ラウンド・シールドとほとんど同じ。しかし、厚みはラウンド・シールドの2倍あり、防御力は高い。

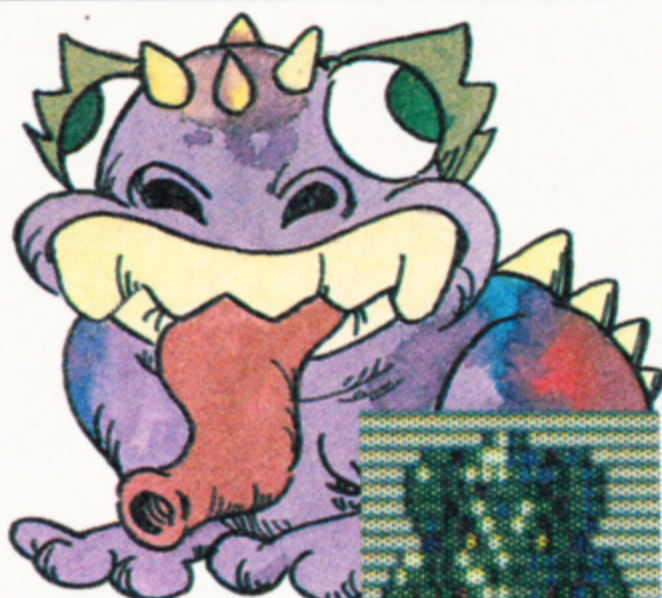
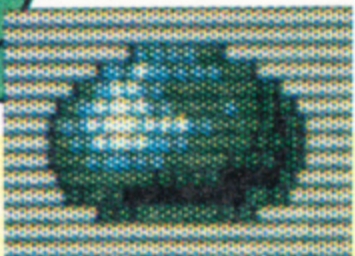
タワー・シールド

かなり大きめの盾で、その大きさは、身をかがめれば全身が隠れてしまうほどだ。当然、重いんだけどね。

シルバー・シールド

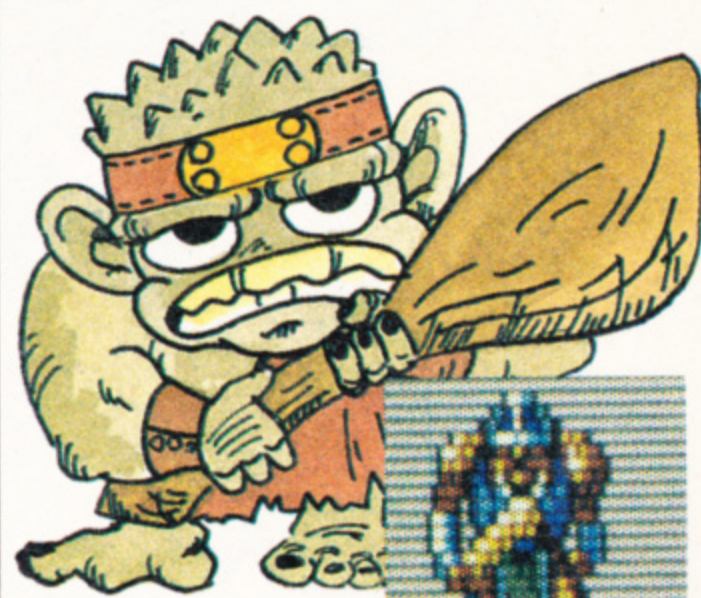
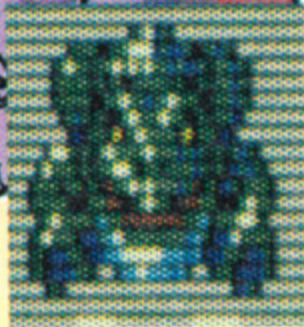
銀の合板を使った盾で、防御力も高い。だが、その重さは尋常でなく、高レベルの戦士でないと扱えない。

ナイツ・シールド

サーク史上最強といわれる盾。プレート・メイル同様、3年の間にかなりの傷を受け、防御力も衰えている。

モンスター大図鑑

グリーン・スライム

ふだんはおとなしく、見た目はコロコロとしてかわいらしい。しかし、人間を見つけ、攻撃できる圏内に入ると、大きな口を開けて襲いかかってくる。形状は違うけど、前作のサークでもおなじみの典型的なザコモンスターなのだ。

G・トード

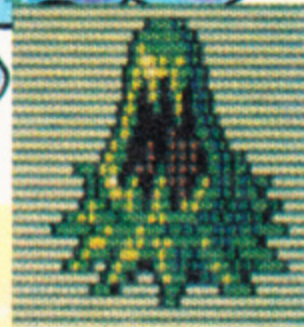
文字どおりカエルのモンスターだ。コイツの舌には猛毒があり、触られると体がしびれてダメージを受ける。ピョンピョンと跳ねながら移動する姿がとてもユーモラスだ。なんでか知らないけど、口がと〜っても臭いらしい。やなヤツ。

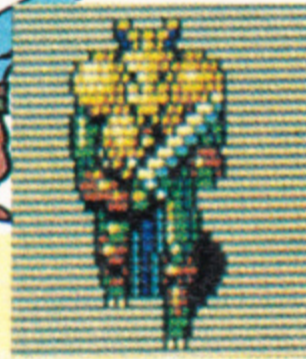
ゴブリン

コイツもスライムと並んでスーパーダイナマイト級に有名なザコモンスターだ。こん棒をブンブン振り回して襲ってくるぞ。足が短くてデブ。しかも、足が遅くてオマケに臭い。いいとこなしの最低最悪のモンスターだ。

ハーピー

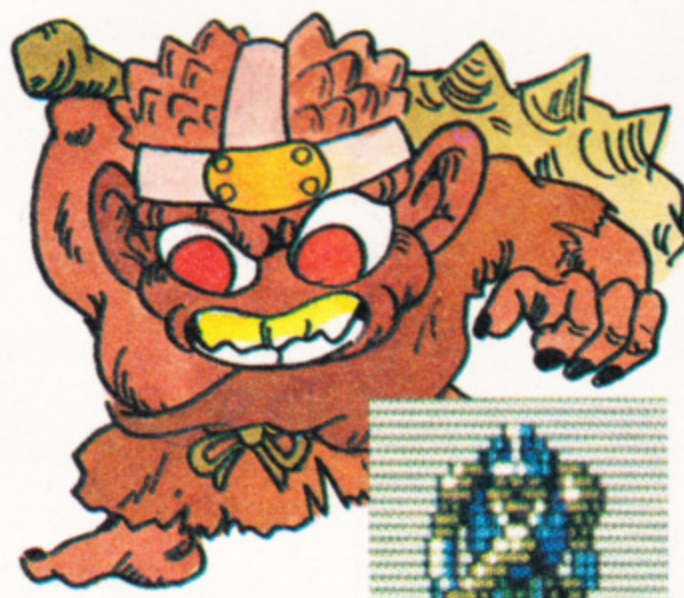
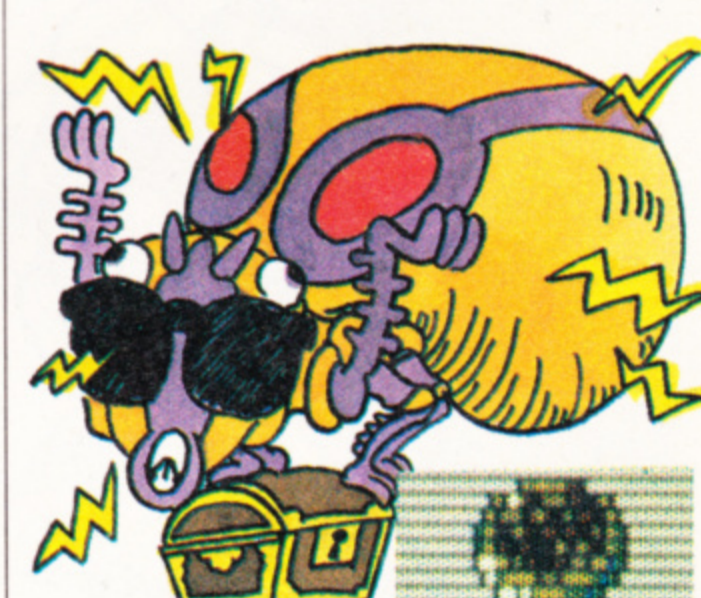
バサバサと大きな翼をはばたかせて空を飛ぶ、女のモンスターである。つり橋など高いところに出現し、羽針のようなものを飛ばし攻撃をしかけてくる。女のくせに、色気がなくてアイソも悪い。体当たり攻撃もしてくるので注意。

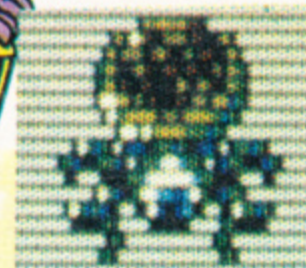
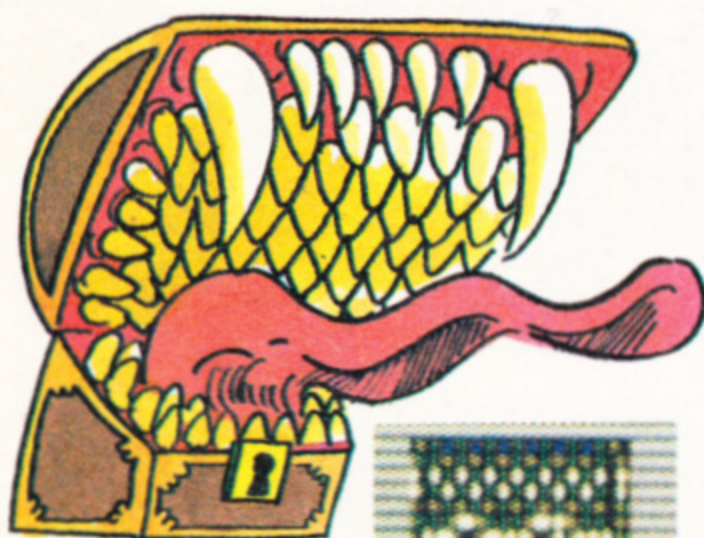
スピット・スライム

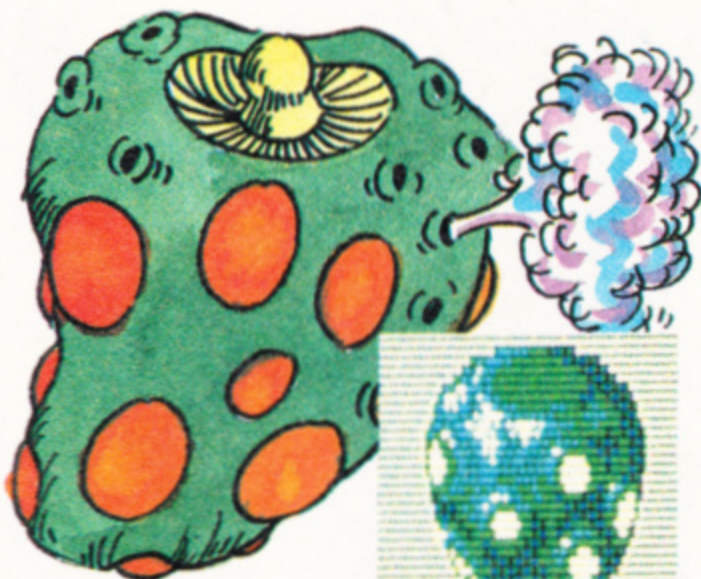
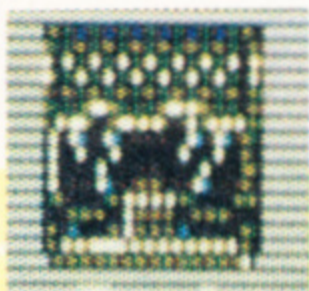
グリーン・スライムに似ているが、少し大きいモンスター。口から汚ない粘液を吐き出して攻撃してくる、そこいらにいるオッサンみたいなヤツだ。しかも、その汚ない粘液には、強力なしびれ薬が含まれているからたまらない。

ノール

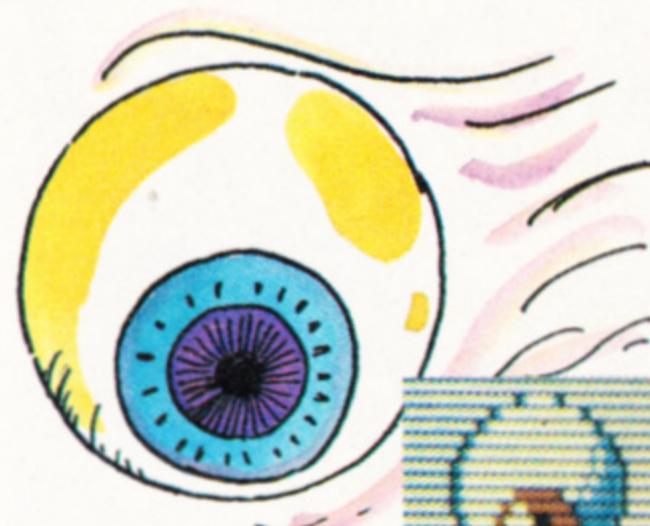
重そうなロング・ソードを両手で振り回して襲ってくる、ちょっと危ないモンスター。しかし、動きはなかなか機敏で、追いかけるとものスゴイ勢いで逃げる。その逃げる後ろ姿には、哀愁さえ感じられるダンディーなヤツ(?)。

マッド・スライム

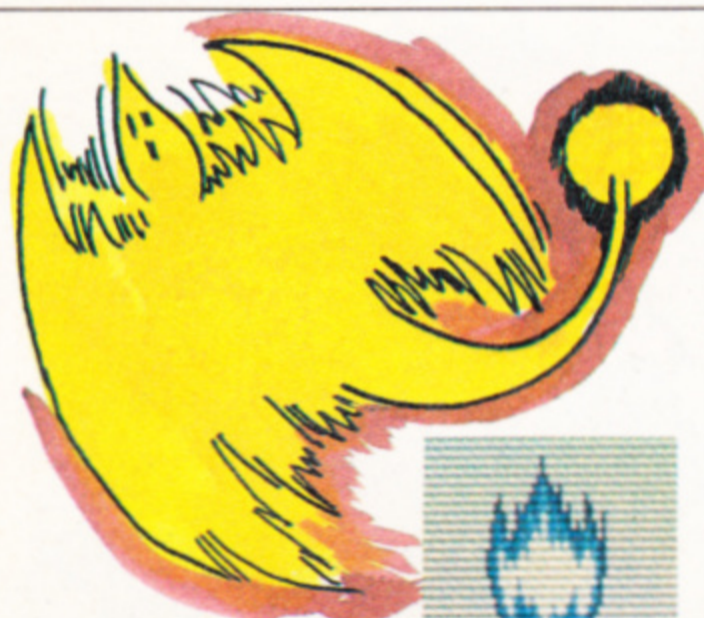
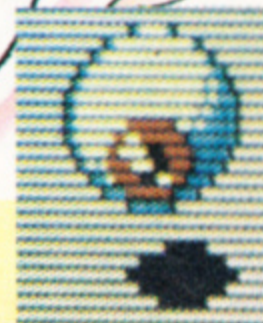
コイツもグリーン・スライムに似ているが、もっとどう猛な性格をしているモンスター。貪欲で、いつも獲物を狙っているクレイジーなヤツ。動きも、グリーン・スライムより機敏だ。かみつき攻撃を得意としている。

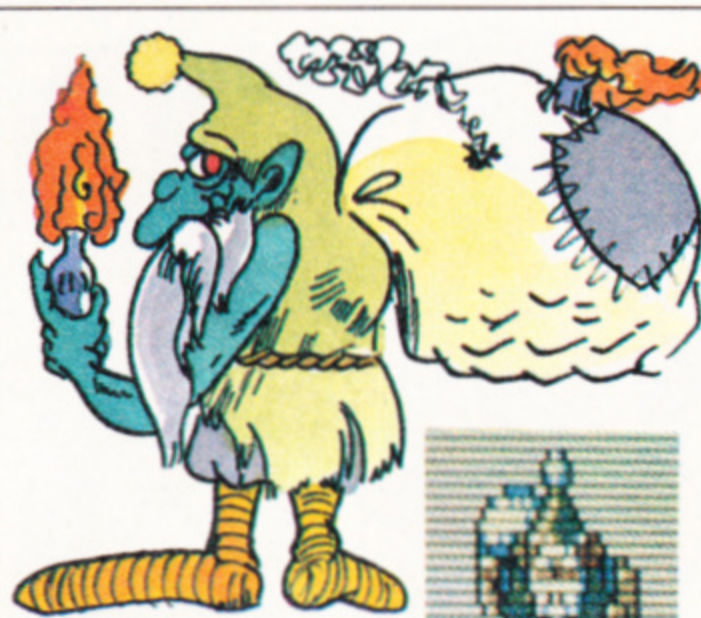
ゴブリン

同じゴブリンでも、コイツは洞窟に出現するゴブリンだ。森に出現するゴブリンは、不健康な日光を受けていて体力が弱いのだが、このゴブリンはなかなか強く、動きもそこそこ速い。やっぱり、こん棒を振り回して襲いかかってくるぞ。

ポックズ

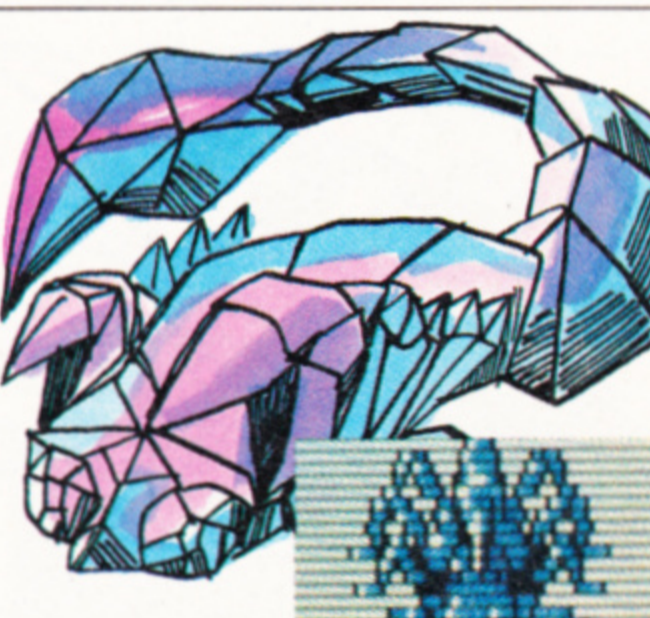
宝箱の上に乗っかっているクモのようなモンスター。体から強い電気を発して、相手を近づかせない。ちょっと見ると、踊っているようにも見えるオチャメなヤツ。ちなみに、コイツも洞窟の中に出現するモンスターだ。

ボローズの森や洞窟など場所を問わず、登場モンスターを一挙に大公開しちゃうのだ。ジャーン。

ミミック

ほかのRPGにも登場している、宝箱にそっくりなモンスター。フタが口になっていて、宝箱とまちがえてうっかり開けてしまうとガブッとかみつかれてダメージを受けてしまう。まるでびっくり箱のようなヤツなのだ。が、移動はしない。

アスコモイド

とっても大きな、キノコ科のモンスターだ。相手が目の前まで近づいて来ると、特殊な胞子を体の穴から噴き出して攻撃してくる、ちょっと気持ち悪いヤツ。こんにゃろー、キノコのくせに生意気だぞ。動きはノロイ。

シーカー

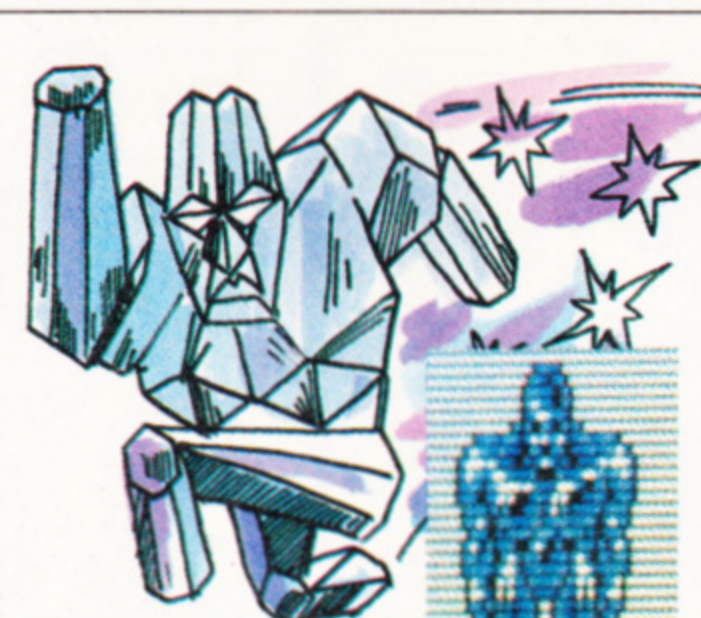
大きな目玉のようなモンスター。ちょっと見た感じ、とても弱そうだが、侮ってはいけない。どんな離れたところにいる敵でも、視界に入りさえすれば、念波で攻撃してくるのだ。見た目よりずっと強いモンスター。

ワート

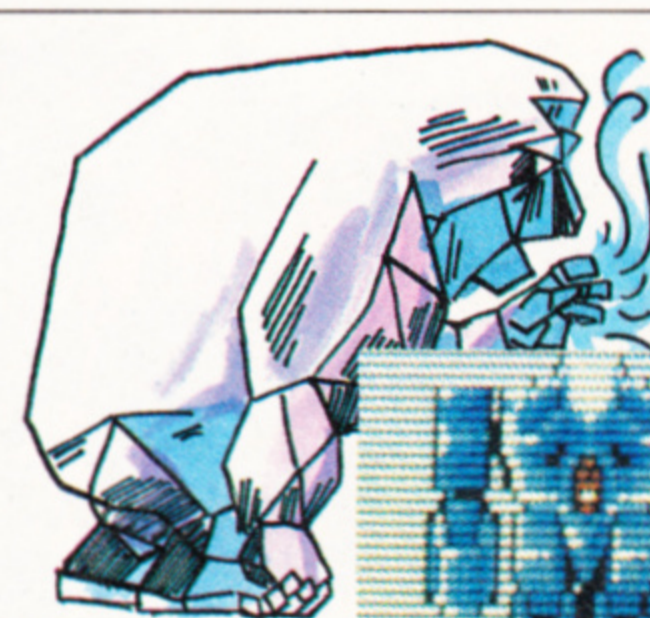
ふだんは小さな光点にすぎない。だが、敵を見つけると光が増してだんだん体が大きくなり、ドーンと体当たりして攻撃してくる。実は照れ屋なモンスターなのかもしれないなあ。シーカーと同じく、結晶の谷に出現するぞ。

ノーム

サンタクロースではないが、大きな袋を背中にしょっているモンスターである。いつも忙しそうにそそくさと走り回っているが、敵を見つけると、袋からおもむろに火炎ビンを取り出し投げつけてくる、ちと危ないモンスターだ。

クリスタル・スコーピオン

結晶の谷に出現する、見たとおりの結晶でできたサソリ。敵の近くまです速く近寄ってきて、尾についた針で攻撃してくる。サソリっていうくらいだから、もちろん毒針だ。チクチクと攻撃する、いやらしいモンスターだ。

マッシャー

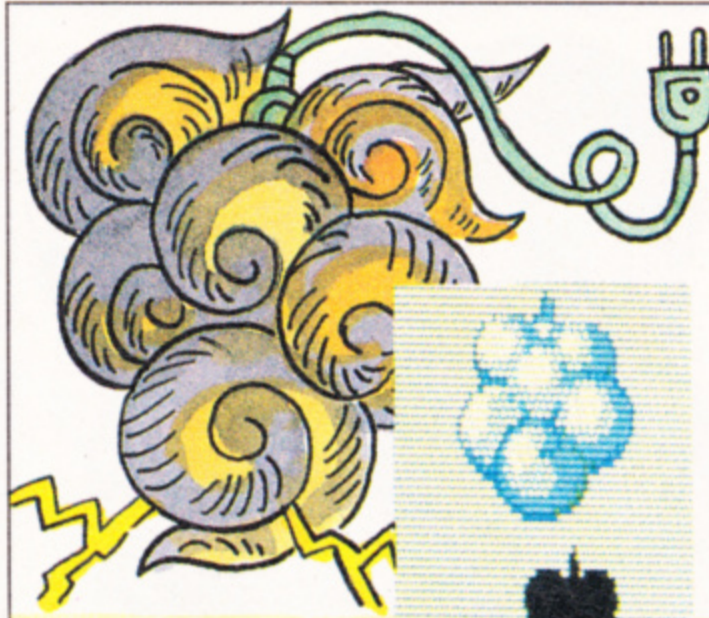
結晶でできた、でかくてゴツい顔だけのモンスターだ。ドスンドスンとジャンプしながら近寄ってくる、スーパーうるさいやつ。このイースター島のモアイのようなモンスターの攻撃法は、ぺしゃんこにしちゃうぞ攻撃、と言うらしい(?)。

L・スタチュー

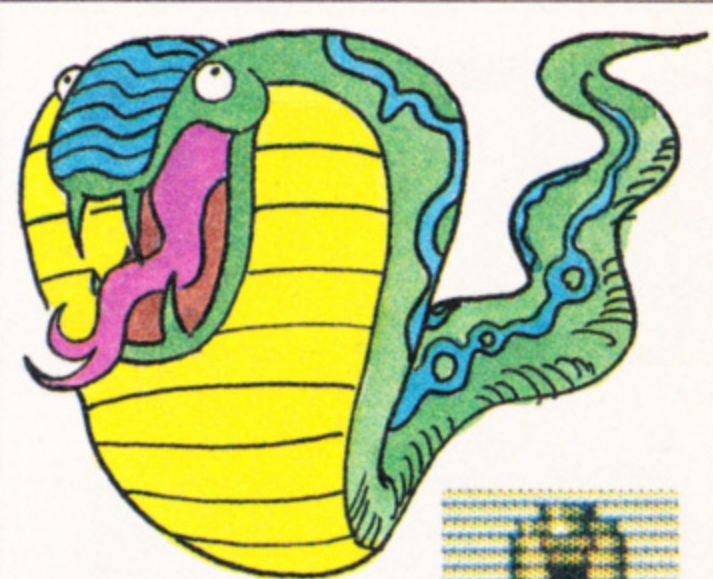
全身が結晶でできた、なんとなくクリスタルなモンスター。敵を見つけると、一気にダッシュしてタックルをかましてくる、とてもファイティングなヤツだ。ダッシュ時の動きもなかなかす速い。結晶の谷に出現するぞ。

クリスタル・ゴーレム

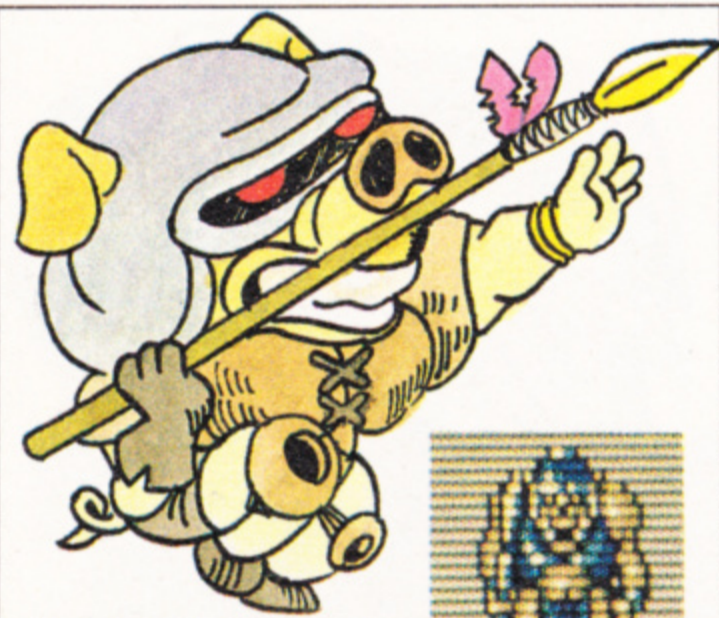
このクリスタル・ゴーレムというドデカイモンスターは、結晶から生まれたモンスターだ。動きが鈍いように見えるが本当に鈍いという、見た目どおりのモンスター。両手からマイナス200度の冷気を噴射して攻撃してくる。

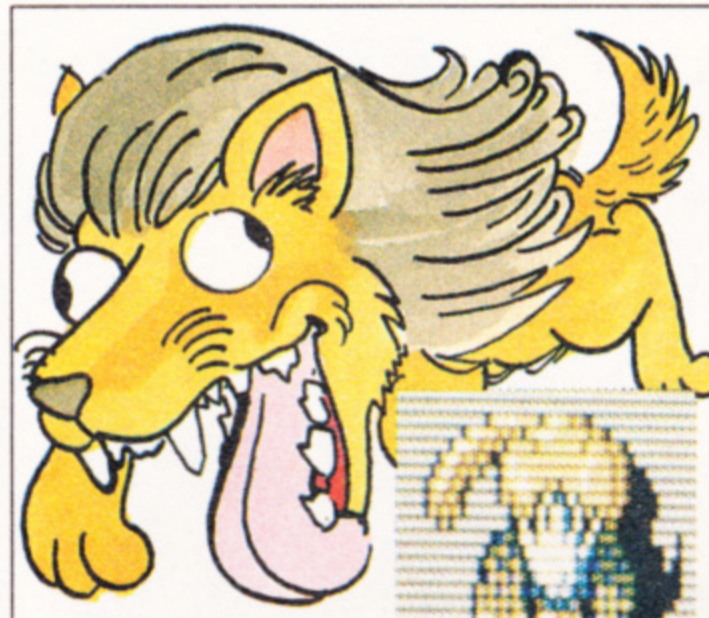
モンスター大図鑑

ゴースト

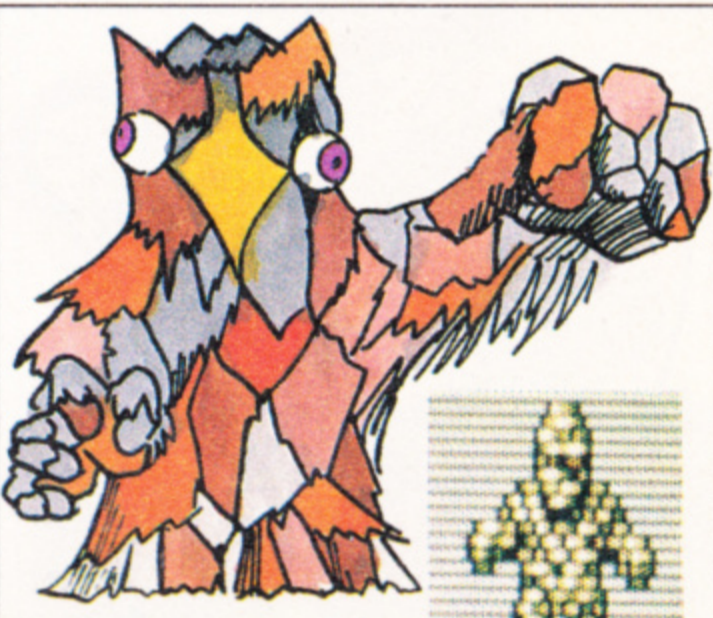
ふだんはノミのように小さく、地上でピョンピョン跳びはねているが、敵を見つけるやいなや、ドロロロローンと大きな姿を現わす。コイツの使うショックの魔法攻撃をくらうと、とんでもないダメージを受けるぞ。

ライウン

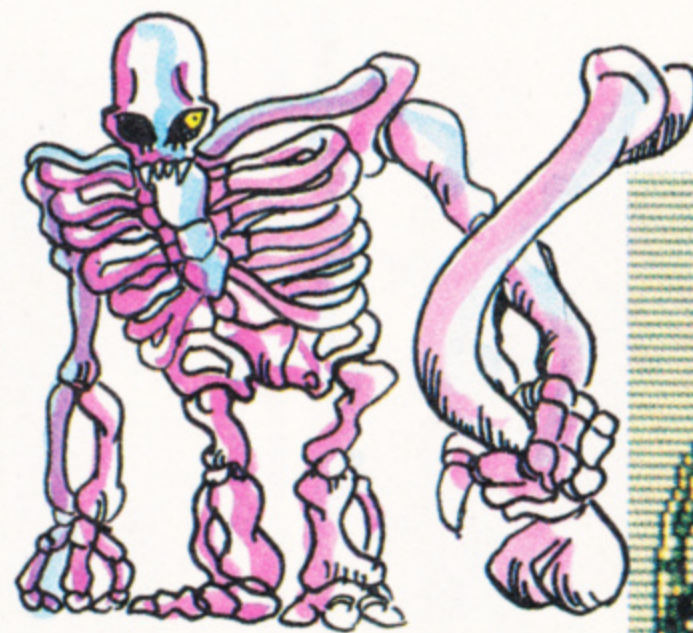
意志を持った小型の雷雲。敵にゆっくりと近づき足下に捕らえると、1万ボルトの雷を落として攻撃してくる。こう書くとかなり危険なモンスターだが、節電のために、一家に1台、いや、1匹いるとすごく便利なモンスターかもしれないね。

ハンティング・コブラ

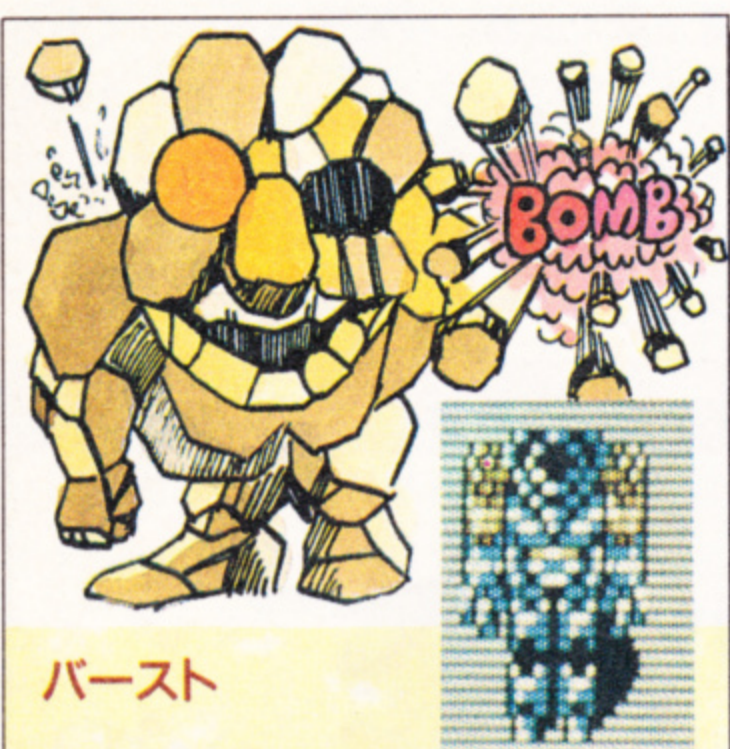
見た目よりどう猛なコブラ。相手を見つけると、す速い動きで飛びかかっていき、鋭い牙でかみついて、猛毒を注入してくる。マングースでもいたらいいのにな。なお、このコブラは左手にサイコガンは仕込まれてないので安心するよーに。

オーク

このオークも、RPG界では超有名なモンスターだ。豚の顔をした人型のモンスターで、お笑い芸人のようだが、非常に狂暴な性格をしている。なにせ豚なので動きは遅いが、力と体力はある。槍を投げて攻撃してくるぞ。

バンダースナッチ

バンダースナッチは、大きな犬とライオンを合わせたようなモンスターである。ふだんはノロノロと歩いているが、相手を見つけると、牙をむき出しにしてものすごい勢いで襲いかかってくる。ジキルとハイドのようなモンスター。

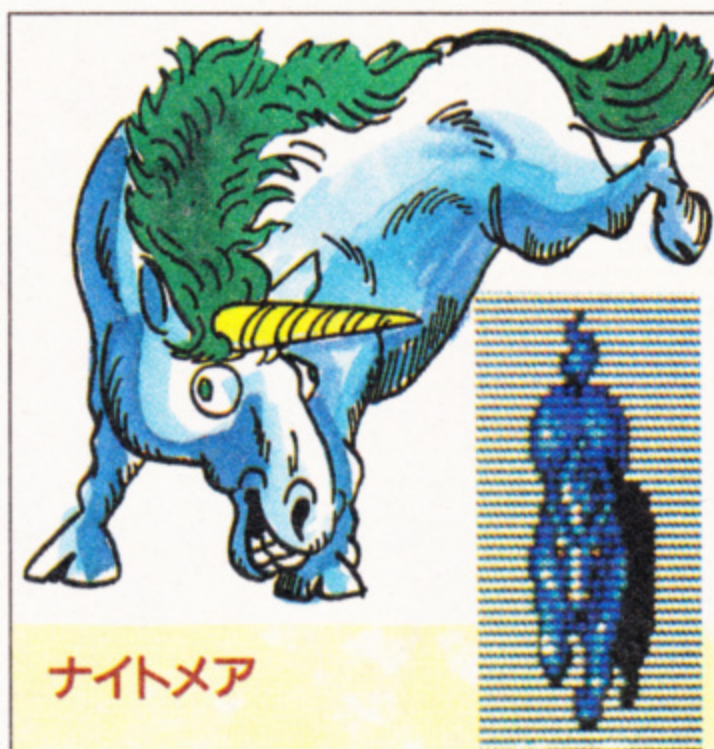
マミー

マミーは、カウリャンの城の亡者の部屋、というところに出現するモンスターだ。特に変わった攻撃はしかけてこないが、マミーには近づかないようにしよう。なぜならば、こいつの体内には猛毒があり、触れると猛烈な痛みが走るのだ。

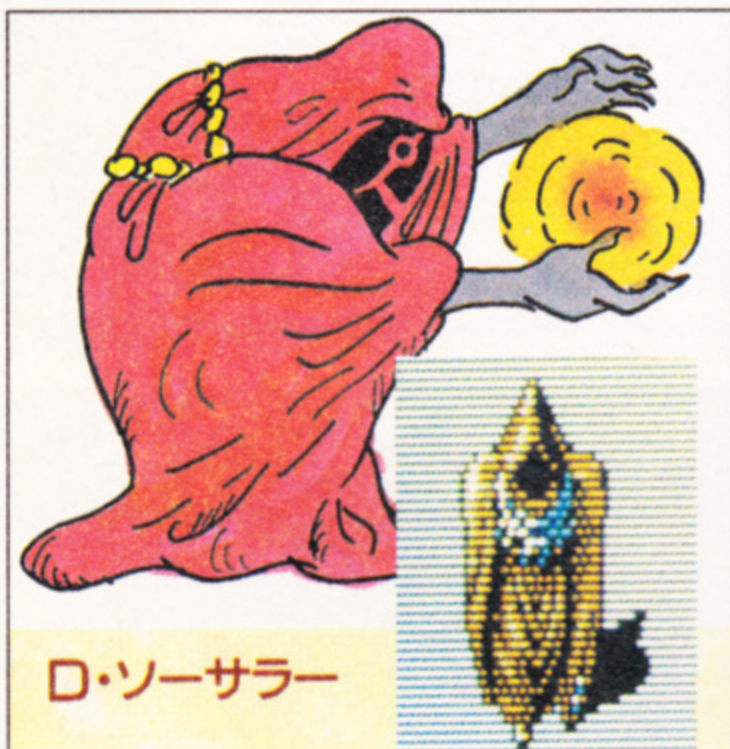
このゾンビに関しては、ほとんどマミーと同じと思っていただきたい。コイツらも、とりわけ目立った攻撃はしかけてこないのだが、マミーと同じく皮膚に猛毒を持っているのだ。出現場所も同じだ。ゾンビは3種類いるぞ。

スケルトン・ジャイアント

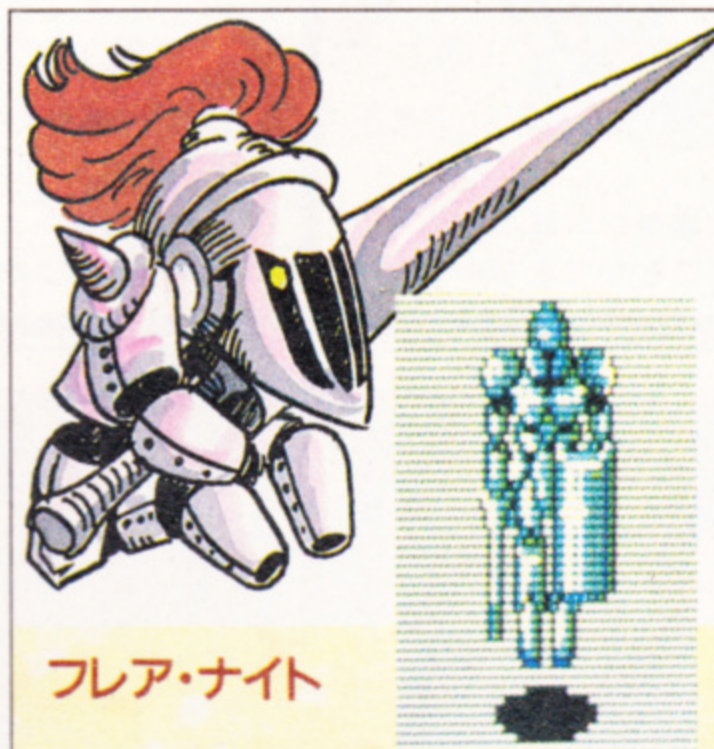
とてもでかく、ひょろっとしたモンスターである。大きなずうたいのため、動きは鈍い。自分のあばら骨を飛ばして攻撃してくるのだが、骨がなくなったらどうするのだろうか？とても不思議だ。自分の体にムチ打ってまで戦うケナゲなヤツである。

バースト

ふらふらと千鳥足で歩き回る、酔っぱらいのようなモンスターだが、侮ってはならない。コイツは、相手が近づいてくると、自ら爆発してダメージを与えてくるのである。爆発してバラバラになったあとは、しばらくするとまた元に戻る。

バナゴモド

重そうな鉄球と鎧をまとった、動きの鈍そうな太っちょモンスターだ。敵を見つけると頭上で鉄球をブンブン振り回し、狙いが定まるとそれを投げつけてくるムチャなヤツ。この鉄球が当たったらさぞかし痛いだろーな。

ナイトメア

美しい角を持った、コバルトブルーの一角馬。強力な超能力があり、コイツの念波につかまると別次元に飛ばされてしまうのだ。しかも、そこで見たこともないモンスターと戦わされるハメになる。自分の手を汚さない、卑怯なモンスターだ。

D・ソーサラー

赤いマントをまとったデカい魔法使い。いろいろな攻撃魔法を使えるらしいが、おもに使ってくるのは、両手に"気"を集中させて相手にぶつけるというヤツ。この攻撃をまともに受けると、大きなダメージをくらってしまうことになるのだ。

フレア・ナイト

遠い遠い昔、フレアという名の偉大なソーサラーがいた。このフレアは、鎧に強力な魔法をかけ、自分の城を守らせていたという。その魔法の鎧が、フレア・ナイトだ。城への侵入者をみつけると、相手が誰であろうと槍で攻撃してくる。

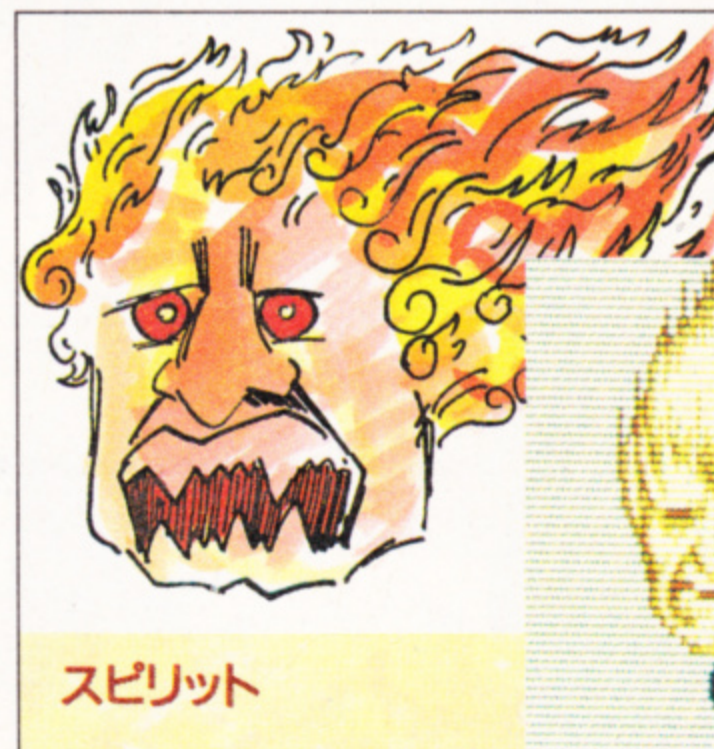
デーモン

上半身は4本の腕を持つ人間の女で、下半身はヘビというグロテスクな外見を持つ。動きは非常にす速く、剣で攻撃してくる。パッと見ると、ロッドも持ってるので魔法が使えそうなのだが、このロッドはただ持ってるだけの見かけ倒しだ。

ラナプ

ラフレシアを思わせる巨大な植物が、このラナプだ。植物のくせに、なぜか地上を自由自在に歩きまわることができる。ふだん、花はつぼみのままだが、いったん敵を見つけるとバッカリと花開き、中から硬い種を飛ばして攻撃してくるのだ。

G・ラナプ

名前のGはジャイアントの意味で、ラナプに魔法をかけてより巨大にしたもの。ラナプと同じく、敵を見つけるとつぼみがバッカリと開き、非常に硬くて大きな光る種を飛ばしてくる。だいたい植物のクセに歩くなんて、ズルイぞ!!

スピリット

大きくて不気味な人間の顔をした幽霊。ふだんは、寝てるのか起きてるのかわからないような顔で、フヨフヨと空間を漂っている。しかし、いったん敵を察知すると、ものすごい形相になって襲ってくるのだ。とってもニ重人格なモンスター。

マジック大図鑑

サークⅡには２種類のマジック（魔法）がある。魔法屋で買ったアイテムを使うマジックと、持っている武器に魔法をかけてもらい、それを使うことにより効力を発揮するマジックだ。

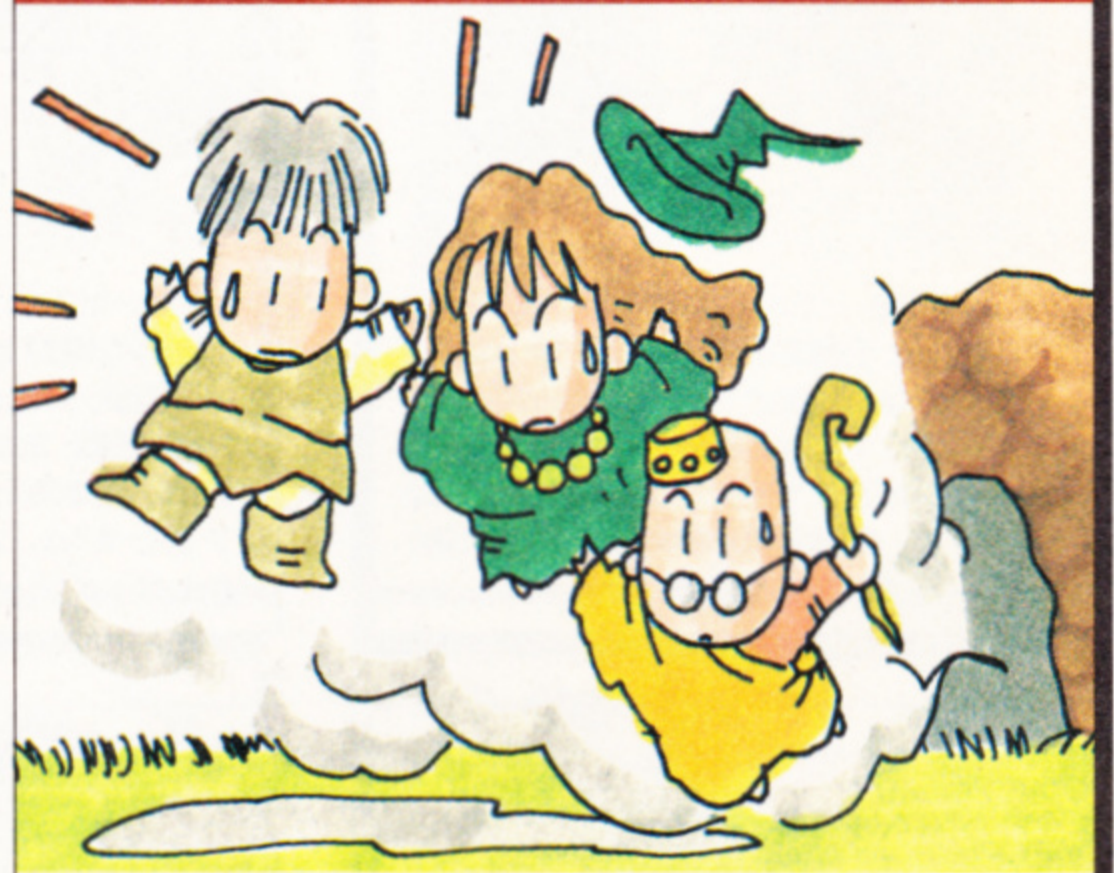
魔法のアイテムは、〝テレポート・マジック〟と〝アストラル・リング〟で、それぞれどんな魔力があるのかは、下のイラストを見てくださいな。

で、もうひとつのパターンだけど、魔法屋で武器に攻撃魔法をかけてもらうと、〝フォースショット〟というエネルギー弾が撃てるようになるのだ。武器の種類によって、いろいろなフォースショットが撃てるんだぞ。

魔法屋で買うマジック

アストラル・リング

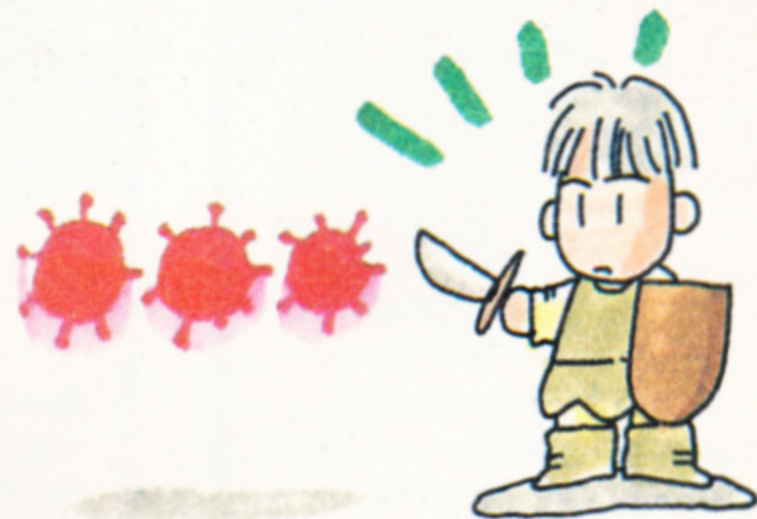
このリングを指にはめることにより、幽体離脱が可能となる。いながらにして離れたところに視点を飛ばすことができちゃうのだ。

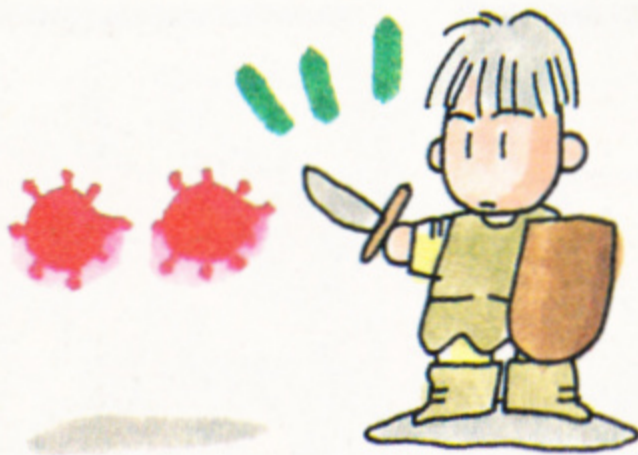
テレポート・マジック

どんなに遠いところからでも、町の近くにテレポートできちゃうマジックがコレだ。魔力により使えない場所もあるから注意ね。

武器にかけてもらうマジック

グラディウス

前方単発のフォースショットだ。この中では一番威力の弱い魔法。

ブロード・ソード

3発の並列したフォースショットを、前方だけに撃てるのだ。

ファルシオン・ソード

前方双発のフォースショット。グラディウスよりは威力がある魔法。

セーバー

前と後ろに、それぞれ1発ずつのフォースショットが撃てるぞ。

グレート・ソード

前後左右に１発ずつのフォースショット。一番強力な魔法だ。

さあ、いよいよ冒険の始まりだ!!

最初にも説明したように、このゲームは〝ボローズの森〟というところからスタートする。父の消息を求めて、妖精のピクシーと一緒にバヌワの港町へと向かったラトクは、この森で道に迷ってしまい、出られなくなっているのだ。現在の目的は、とりあえずこの森から脱出することである。そういえばピクシーはどこへ行ったんだろう？ あっ、来た来た。この森の様子を探りに行ってたんだったね。

ピクシーの話によると、森には結界が張られていて出口が見つからない、が、そんなことはさておく。向こうで見知らぬ女の子が木に縛られているというのである！

それは大変！ とばかりに奥へ進んでみると、狩人と見受けられる女の子が、「ちょっとアンタ！助けてよ！」と悲鳴をあげている。ずうずうしい女だと思うかもしれないが、ここは助けてあげよう。でもこの女の子のずうずうしさはここでは終わらない。助けてあげたあとにも、「ついでに町まで連れてって」とお願いされてしまうのだ。ま、仕方ねえや、助けてやるか。とりあえず森の一番奥まで進んでみよう。すると女の子が、持っていた木の彫像に祈り始めるぞ。すると突然目の前に１本の道が現われ、ラトクはついにバヌワの港町にたどり着くのである。さぁ、いよいよ冒険の始まり。この先、どんな事件が待ち受けているのだろうか!?

☗縛られている女の子はシャナ。森の民だ。

☗困ったときは相身互い。助けてあげましょ。

☗町へ連れてってくれって？ どーやって？

☗なーるほどね。助けといてよかった。

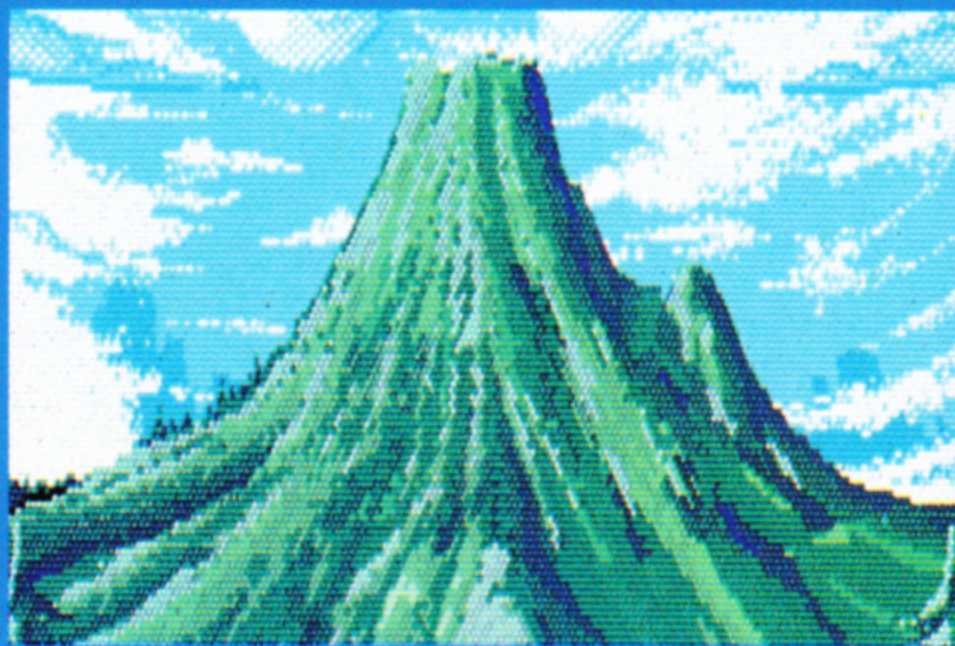
"あの方"とは?

まあ、そういうわけで、なんとかたどり着いたバヌワの港町。この町の人たちも、前作のサークのフェアレスの町と同じく、みんないい人ばかりなのだ。

だけど、どうもみんな何かを隠しているようなフシがある。まずは、武器屋のジーク。この男にラトクの父のドルクのことを尋ねても、知らないというのだが、そのときのそぶりがどことなく怪しいのだ。このジークは、昔は王に仕える剣士であったが、何らかの理由で剣を捨て、武器屋をやっているらしい。医者のバスパの話だと、彼は何かを知っているようなのだが……。

次に、道具屋の娘のフリーシアである。この女の子と話をすると、最後に「あの方のおかげで……」とこぼす。そういえば、町の通行人の中にも、そんな感じのことを話す人がいる。そこでこのフリーシアに、その〝あの方〟についてもう一度尋ねてみるのだが、話をムリヤリそらしてしまうのだ。う〜む、なぜだろう？

この〝あの方〟とは、いったい何者なのか？ どうして隠さねばならないのか？ そして、４年前に行方不明になったラトクの父、ドルクとは、どういう関係があるのだろうか？ 謎は深まるばかりである。

次号でも紹介するぞ!

LOGiN 19号特別付録

平成２年10月５日発行（毎月２回第１、第３金曜日発行）第９巻　第19号　通巻114号

Printed in Japan